

2017年11月度 中部品質工学研究会 議事録

- 開催日時
2017年10月28日(土)10:00~17:00、10月29日(日)8:00~12:00
- 開催場所
浜のやま荘

- 参加者<敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

大見	出	牧野	出	横尾	書	山口	出	杉浦	欠席	佐藤	出	合田	出	石上	出	林	休
則尾	出	伊藤	出	船山	出	城越	出	庄内	欠席	三浦	出	中山	出	池田	休	森	休
岡田	出	李	出	河合	出	出島	出	福田	出	奥村							

- 研究会のテーマ

- 4.1 輪講: 第3章 「技術開発におけるマネジメントと戦略」担当 佐藤氏

次のようなディスカッションを行った。

- ・商品品質と技術品質の考え方
- ・社会全体の生産性(≒社会の一人一人の自由の総和)について
これを上げるために大切なことは、そのような手段(予測)の開発であり、開発の能率化。
- ・システム(コンセプト)の選択について
今回は第4章 三浦氏

- 事例相談

- 5.1 歩行車『曲がる』の機能性評価 岡田氏

- ・機能の定義と、入力をどう定義するかがポイントになりそう
- ・当初定義していた機能は、実態に伴っていないと指摘あり
- ・実態に伴った理想機能を定義するものの、測定技術の面で安定した入力を与えられない実状がある
- ・相談結果を踏まえて、一度社内に持ち帰り、再検討することとした

- 5.2 パラメータ設計 李氏

- ・製品機能要求の简单介绍
- ・メイン機能【挟む力】と【空転トルク機構】の関係、機能定義及び理想図の紹介
- ・評価特性の相談協議
⇒【挟む力】機能に動特性のゼロ点比例式で考えている
⇒アドバイス:お客さんが欲しいものによる、その観点を考えると
「ノイズ」挟む相手の素材や状況の考慮
「出力」挟む力ではなく、浮き上がり量とかに注目すべきでは?
⇒【空転トルク機構】機能に静動特性の望目か標準SN比ですか議論した

- 5.3 Deep LearningとMT法 福田氏

- ・Deep Learningについて主要な手法の考え方や計算方法等の概要を説明(FNN、CNN、RNNの3つのうちFNNをメインとして説明)
- ・上記を踏まえて、「MT法との相違点」と「DL的なMT法の表現」を検討

- 講演: 応答局面法について 則尾氏

- ・資料や、エクセルプログラム/スプレッドワークスでのシミュレーションを使って、応答局面法が、どのような処理、分析をしているかを説明
- ・応答局面とは、複数の関数を使って、面を作り、最適解を求める手法で、実験計画と重回帰分析の組み合わせで使う
- ・重回帰同様、モデル式を作るので、実験した点以外の値も推測できる
- ・ロバスト最適化の考え方は、タグチメソッドとは異なる。(Xを動かして、Yの振れ幅が一番小さいところを選んでみる)
- ・テキストで、「応答局面法であっても外乱の影響が測定可能であれば、パラメータ設計同様に出来る」との記載は、許容差設計と同じ考え方の手法であって、市場の外乱を分析することは出来ない

- 分科会活動 全員

各分科会毎に、テーマの内容についてディスカッションを行い、これまでの活動状況を中間報告した

- 事務連絡

- ①研究会の検討事案一覧表紹介(城越氏)

- ②12月の定例会の内容(案)紹介(城越氏)

講演会を中心に開催

- ・CS-T法について(細川さん)

- ・田口 伸さん(1月?)

- ・則尾さん、池田さん、森さんへも講演を依頼する

忘年会@ITEQ

秘密保持契約の確実な実施のため、会則に記載(改定時)

- ③予算 活用計画(山口氏)

以上